ニュースを追って

来館者増え好スタート

アウトドア拠点へより充実を

ゆったりと座れるソファや椅子が並び、唐桑の風土や歴史、文化を学べる展示エリアもある広々とした館内。トレッキング客などが安心して休憩できる空間が広がる。

トレッキング、野外活動で利用

アウトドア拠点施設として昨年4月20日、生まれ変わったビジターセンター。昨年度は、旧ビジターセンター時代の21年度より約7千人多い1万6270人が利用した。

このうち、オルレやトレイルのトレッキングで訪れた人は2597人で、約16%を占めた。地域別では県内7割、県外2割、海外1割だった。

最も来館者が多かったのは5月の4146人。ゴールデンウイークのイベントや、仙台市内の中学校が野外活動で訪れ、数字を伸ばした。

1年目は珍しさも加わって集客につながった。2年目は落ち込むことも予想されたが、すでに仙台市内の中学校4校が野外活動で訪れ、トレッキングやカキ養殖いかだ見学といった漁業体験などとともに、ビジターセンター利用拠点に定着させてはどうだろうか。

4月のトレッキング客の利用は235人でこのうち、ドイツやアメリカ、韓国からのツアー客などが2割ほどあった。昨年より増加しており、市観光課も「オ

「からくわ荘」跡地の活用も課題だ。「せっかくの敷地を空いたままにしておくのはもったいない」「バーベキューができる場にしては」などの声が以前から聞かれているが進展はない。市観光課は「売るほどある」と話すも、めどは立っていない。

施設の利用は無料で、維持費はすべて市が負担している同センター。それだけに施設をもっと生かす工夫が必要ではないだろうか。

充実した休憩施設があり、その上、キャンプ場が近くにある環境は、アウトドアを楽しむ人たちにとっては絶好の場所ともいえる。

キャンプ場に相乗効果

県の委託を受けてビジターセンター内で御崎野営場の受付を行う。体験館はなくなったが、トレッキングや漁業体験など新たな魅力をもっとPRしたり、充実させたりして、野外活動拠点に定着させてはどうだろうか。

4月のトレッキング客の利用は235人でこのうち、ドイツやアメリカ、韓国からのツアー客などが2割ほどあった。昨年より増加しており、市観光課も「オいつ訪れても楽しめる施設となるよう、官民がアイデアを出す必要があるだろう。

また、利用者からは「もっとイベントを開いたり、展示の説明をしてくれたりする人がいれば利用

土日の利用が半数以上で、平日の利用を増やすのも課題の一つ。イベントを開催したり、展示を工夫したりするなど、

隣接の国民宿舎跡地活用決まらず

4年ほど前から更地のままとなっている隣接の旧国民宿舎が現状。周辺の魅力づくりと合わせて取り組んでいきたい」と話すも、めどは立っていない。

施設の利用は無料で、維持費はすべて市が負担している同センター。それだけに施設をもっと生かす工夫が必要ではないだろうか。

充実した休憩施設があり、その上、キャンプ場が近くにある環境は、アウトドアを楽しむ人たちにとっては絶好の場所ともいえる。

約2億円をかけて整備し、無料で利用できるビジターセンター。好調なスタートを切っただけに、インバウンドを呼び込むのも一つの方法だろう。

約2億円をかけて整備し、無料で利用できるビジターセンター。好調なスタートを切っただけに、官民が連携してアウトドア拠点施設としてより充実させる2年目にしてほしい。

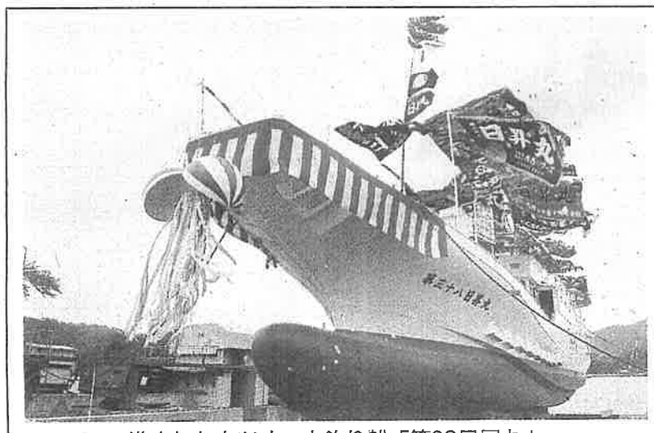
と、外国人のトレッキング客が増え、隣接する野営場に宿泊する人も多くなるなど、相乗効果が生まれているという。オルレ、潮風トレイルのトレッキングービジターセンター利用ーキャンプ場で宿泊というプランをもっと前面に打ち出し、インバウンドを呼び込むのも一つの方法だろう。

約2億円をかけて整備し、無料で利用できるビジターセンター。好調なスタートを切っただけに、官民が連携してアウトドア拠点施設としてより充実させる2年目にしてほしい。

「売るほどある」は、想像できそうである▼備蓄米を放出してもコメの価格は下がらず、消費者が悲鳴を上げている。その苦しみも分からない不適切な発言。国民感覚とこれほどズレている人が、農相を務めていたのかとあきれ果てる▼少ない年金に物価高騰が続き、一向に国民の暮らしぶりが良くならないことを考えると、江藤氏以外にも庶民の痛み、苦しみが分かっていない大臣、国会議員が相当数いるのではーと勘ぐってしまう。こうした人たちに国を任せてはおけない。国民は次の選挙でしっかりと見極める必要がある▼コメ高騰でコメ離れが心配される一方、産地では高齢化で離農が進んでいる。「コメ担当大臣」を自認する小泉進次郎新農相。早速、備蓄米を5キロ当たり「2千円」の方針を示し本格始動した。コメ価格安定と、若者もコメを作りたくなるような改革を急がなくてはならない。

高い技術力と実績が評価

造船 みらい 気仙沼で戦後初のカツオ船建造



進水したカツオ一本釣り船「第38日昇丸」

気仙沼市朝日町の「みらい造船」が建造した近海カツオ一本釣り船が完成し、23日、現地で進水式が行われた。気仙沼港でカツオ一本釣りの新船建造は戦後初めて。従来のFRP（繊維強化プラスチック）製ではなく、軽量化して燃費向上を可能とした珍しいアルミ製の船で、東日本大震災後、旧5社が合併して誕生した同社の高い技術力で実現した。

新船は、高知県船籍の「第38日昇丸」（岡本茂漁労長）。総トン数は80㌧、17人乗りの中型船だ。

船主は、高知県高知市の一般社団法人高知かつお漁業振興協会。同市の漁業会社「日昇」が所有し、老朽化した「第8日昇丸」（113㌧）の代船として、国の補助事業を活用して建造した。建造費は約7億円。

当初は一般的なFRP製を検討していたが、昨今の船価高騰に加え、国内で唯一、カツオ船の建造を行っていた九州の造船所が、経営譲渡でFRP船の建造を中止した影響などもあり、計画の見直しを余儀なくされた。

総トン数を計画していた119㌧から80㌧に縮小した上で、材質を軽合金（アルミ）製にして建造コストをできるだけ抑え、工期短縮を図ることを決断。2019年9月に開業した「みらい造船」に合併した旧「ケーヤード」社が、サンマ船や底引き網船など、アルミ製漁船を100隻以上建造した実績があることなどから、同社に白羽の矢が立った。

建造は昨年4月に始まり、「みらい造船」では専門チームを立ち上げて各社の技術力を結集。「国内2隻目」というアルミ製の近海カツオ一本釣り船の完成にこぎ着けた。

進水式では、関係者約80人が神事で航海安全と大漁を祈願。セレモニーで船を支える綱が切断されると、大漁旗で飾られた「第38日昇丸」がゆっくりと進水した。

高知かつお漁業振興協会の中田勝淑代表（68）は「気仙沼はカツオ水揚げの拠点で、修理まで完結できる港。経営環境が厳しさを増す一本釣り漁の新たなモデル船にしたい」、みらい造船の吉田慶吾会長（68）は「カツオ船の建造は長年の夢だった。合併した各社の高い技術力が集まったからこそ、成し遂げられた」と喜んだ。

同船は6月中旬から操業を開始し、気仙沼魚市場へのカツオ水揚げを予定している。

作品を募集

落合直文全国短歌大会

気仙沼市の落合直文顕彰会（荒木英夫会長）の「第38回落合直文全国短歌大会」が今年も誌上開催される。作品を募集している。

落合直文（1861～1903）は、市内松崎片浜の鮎貝家（煙雲館）に生まれた国文学者で、近代短歌革新の先駆者。

今年の選者は、歌人集団「かばん」の東直子さん（東京都）。題は自由で、未発表のものに限る。参加料は1首につき千円で、1人2首まで。市内の各公民館、市立図書館などにある応募用紙で申し込む。中高生は1人1首、応募無料で、学校を通じて申し込む。

締め切りは8月30日必着。応募先は「郵便番号988・0113、気仙沼市松崎片浜197　煙雲館気付落合直文短歌大会実行委員会」宛て。

入賞発表は、10月下旬を予定している。問い合わせは同顕彰会の鮎貝さん（電話22・1318）まで。

同会の総会がこのほど開かれ、本年度事業計画で短歌大会開催などを決めた。任期満了に伴う役員改選では、荒木会長を再任した。

人気の幸町エリア!!
住研の建売住宅
5/24(土)・25(日)
オープンハウス開催!
10:00～16:00
お気軽にご来場下さい
子育てグリーン住宅支援事業
長期優良住宅・耐震等級3
◎補助金80万円対象物件
※国の予算状況により補助金の受付を締め切る場合があります。
www.juken-kougyou.co.jp

あさひ鮨謹製
特製漬け丼
26日(月)ランチ限定
11:00～14:30
※店内ご飲食に限ります
(お椀付き) 1,000円(税込)
晩酌セット 3,300円(税込)
好評ご提供中!
ホヤチケXご利用ください
気仙沼 あさひ鮨
気仙沼市南町2丁目4-27 ☎23-2566
昼の部 11:00～14:30
夜の部 16:00～21:30 (L.O.21:00)

蜂
株式会社
川原